

かみなりした  
市川市 雷下 遺跡

雷下遺跡は、国分川西岸の標高約6mに広がる低湿地の遺跡です。平成13年から調査が始まり、今回が6度目の調査にあたります。これまでの調査で、地下4m～6mの深さに縄文時代早期の遺物を含む包含層や貝層が見つかり、今回の調査でもその事実を追認するとともに、遺跡の広がりなどについてのより詳しい成果を加える事ができました。

今回の調査は橋脚の支柱を作る部分のみを調査するため、低湿地の柔らかい地層の狭い範囲(60cm角)を深く掘る必要があります。物理的にも、また安全性からも人が中に入って調査することができないため、クラムシェルという機械を使って土を塊で取り上げ、中に含まれる遺物や貝殻などを調査しました。



中央、奥のオレンジ色の機械がクラムシェル。手前、板の上の小山は一回に取り上げられた塊



バケットで土をつかみ上げたところ  
(手前のさび色のものは土が崩れないように支える筒状の鉄板)



土をつかむため腕を伸ばしているところ



取り上げた土を塊ごとに調べる



発見された貝殻